ISSN 0388−5569
VOL. 14 No. 2
（通巻41号）
1993.10

Library News

山口大学附属図書館報

目次

図書館の仕事　千葉喜彦 …… 1
新しい図書館を創る　上田照賀 …… 2
ＩＬＬシステムについて …… 5
平成５年度附属図書館関係各種委員会委員名簿 …… 7
お知らせ …… 7
人事異動 …… 8
日　誌 …… 9
平成４年度図書館統計表 …… 10

図書館の仕事

千葉喜彦

千葉でございます。44の大学からお集まりいただきまして、私ども山口大学図書館員全員、心から歓迎申し上げます。私は昨年の４月から館長をしていまして、まだほんの駆け出しにもならないような者でございますけど、それなりに図書館の事を色々考えてまいりまして、ちょっと心にありますことの一部を申し上げてご挨拶に代えたいと思います。

たまたまですけど、数日前毎日新聞の一面の一番下に横長の「余録」というコラムがありますが、そこで文化財が明治以来今日まで４回破壊や消滅の危機に直面していると述べられており、なるほどと思いました。第一回目は明治維新直後の混乱期です。それから二番目が明治末から大正にかけての美術品の国外流出時期です。三番目が第二次世界大戦の時期、四番目が高度成長期の開発と都市化の波であると述べていました。

ですからちょうど私どもは文化財が危機にさらされているこの時期に、まさにいるのであるとのことでした。この見方が図書館と非常に関係が深いのではないかと感じました。もちろん文化財というのはよく調べてみますと国による定義があるようです。しかし、広い意味で私どもが扱っているいろいろな学術情報とか、書物といったようなものまで、全て文化財であると考えますと、これらのものもおそらくこの４回の時期、危機にさらされてきたということは想像に難くないと思うわけです。

実は、私自身の個人的な経験で恐縮ですけど、ある大学で理学部の生物学科を卒業し、助手を永く務めておりました。その間の仕事の一つに海綿動物の標本のアルコールをとり替える作業がありました。私の教授の前の教授が海綿動物の分類学の専門で、その人がずっと集めておった標本で、中にはその先生が発見して命名した新種で世界にそこだけしかない貴重な標本がいくつもあり、それを維持していかなければならない仕事でした。ご承知のように、生物学は分子生物学、分子遺伝学が栄えて、分類学といった非常に地味な学問分野は注目されない状態が続きました。しかし、今再び、分類学あるいは博物学の重要性が、新しい視点から注目され始めています。

さて、この段階にきて日本中にたくさんあったはずの標本がどの程度雲散霧消することなく維持されてきたかということが問題になってくるだろうと思います。実は、状況は非常に絶望的なのです。私が世話した海綿動物もその後世話する人がおりません。このような状況は、どの大学にも多かれ少なかれあると思います。

さて、分類学が再び脚光を浴びてくることを

予期しないような状況の下でも標本保存のことを憂えている人は沢山いました。その人達は標本を学問のために必要とするだけでなく、文化遺産として維持すべきであると考えていたわけです。

要するに、私が何をお話しようとしているのか既にお解かりのことと思います。今まさに情報化の時期であり、学術情報の新しい蓄積あるいは流通の方式といったものを積極的にとり入れて、図書館活動に新しい面を造り上げていくことが非常に大切なことだと思います。しかし、一方ではわれわれ人類の文化遺産や知的財産といったものを守る仕事もぜひ続けるべきです。週刊誌にいろいろかかれていることを気にする向きもありますけど、私はああいうことを全く気にすることはないと思います。倉庫であれば倉庫としての役割があるわけです。要するに文化遺産というのは一つの立場から、軽々に評価できるようなものではありません。それだけに、それを守るというのは大変地味な仕事になります。どうかそういう仕事の社会的な意義を信じて、誇りをもって図書館の仕事を続けていっていただきたいと思います。

この総会が私どもの仕事の社会的意義に対する認識を深めるのに役立つことを祈って、ご挨拶に代えたいと思います。

（図書館長・理学部教授）

（第41回中国四国地区大学図書館協議会総会での「挨拶」より）

新しい図書館を創る
－外国雑誌購読見直し法の一例－

上田照賀

Ⅰ．はじめに

医学図書館資料の中で、ジャーナルは研究者にとってフォーマルな情報源の中心であり、そのコレクションの構成次第で医学の教育・研究・臨床に多大な影響を及ぼすであろうことは過言ではない。特に外国雑誌は高価でしかも毎年の値上がりがあり、各図書館でも予算とにらみ合わせてその評価・選択・収集・管理・運用の最適化を目指して鋭意努力し、また苦慮しているのが現状ではないかと思われます。

本学でも数年来予算と値上がりの関係でやむなく削減のみを行ってきた。しかし、ユーザー（主として教官）からは時代に即応し、研究者のニーズにあった雑誌購読の要望が高まっており、その状況に照らし合わせて本学分館図書委員会（構成：分館長、基礎系、臨床系の教授各１名、助教授各１名、医療技術短期大学部教授１名、計６名と図書館）で検討の結果、1993年の購読外国雑誌について画期的な大幅な見直しを決定した。

見直しのコンセプトは“新しい図書館を創る”つまり既存コレクションは白紙の状態と考えユーザーからのリクエストで新コレクションを創ろうというものです。このたび図らずも発表の機会を得ましたので、本学分館の見直しについて若干ユニークな方法だと思われるので簡単に事例報告をいたします。

なお、方法に主論点をおき、数値的なデータについては概数的な表現とさせていただきました。

Ⅱ．本学医学図書館のプロフィール

簡単にプロフィールを述べますと、施設はＲＣ２階建て、総面積1,951㎡、予算規模約11,000万円［内資料費約6,000万円（外国雑誌費約4,900万円「中央経費分のみ」）］、蔵書数約14万8,000冊、利用対象人員（教職員・学生）約2,000人、スタッフ７名（パート１名含）です。

特に雑誌については集中管理方式で外国雑誌年間受け入れ種類数約600タイトル、予算の拠出方法は一部を除いて中央経費からとなっています。また、自称、利用者にとってサービス度数120％、アメニティー度数100％、いつも活気

にあふれてアットホームな良心的図書館です。

Ⅲ. 方　　法

雑誌の評価・選択については様々な理論・方法があると思いますが、本学分館の今回の見直し方法は、はじめに述べたように現図書館所蔵の有無は無視して、あくまでユーザーのリクエストを主体として（当然のことであるが）新コレクションを創っていこうという方針で、さらに本年中にオーダーが速やかにできることという前提で次のような方法手順をとった。

①委員会で現コレクションの中から共通部門雑誌（基礎的なコアジャーナル）をSCIジャーナルランキングも参考にして選択し、約90点をリストアップ。その理由はユーザーのリクエストが専門分野のみに偏るのを避けるためである。②各講座（32講座と診療科、薬剤部）に上記リスト以外で購読希望雑誌を優先順位を付けて20点以内リストアップしてもらうこととした。20点の定義は予算的なことを踏まえおよそその範囲に収まるであろうと言うことと集計作業を配慮したためである。さらに参考までに共通部門雑誌も５点以内リストアップしてもらうこととなった。（図１）。③上記提出リストの書誌事項確認、価格調査、各雑誌の分類作業。④集計作業をコンピュータで行うため、入力用データ項目の設定。A．講座コード、B．講座名、C．希望順位、D．E．雑誌名（ソートの際桁数が長いために分割）、F．発行国、G．年間購読価格、H．～J．分類（結果的に第一分類のみ使用）、K．重複度、L．所蔵の有無（表１）。⑤データ入力：総件数756件（共通部門雑誌も含む）。⑥各講座間の雑誌重複度調査（756点中118点が重複）。⑦既存コレクションの中から、購読希望の無かった雑誌をリストアップ(約110点)。⑧各種集約リスト出力作成。⑨各講座間との調整。

別　紙　図書館提出用　　講座名

順位	雑誌名	発行国	発刊数	年間購読料
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
17				
18				
19				
20				

共通部門購読希望雑誌５点以内記入可

1				
2				
3				
4				
5				

図１．希望リスト提出票

Ⅳ. タイムスケジュール

①平成４年２月５日委員会開催：見直し方法方針決定、３月中旬までに委員会で共通部門雑誌選択。②３月26日委員会開催：委員会で決定した共通部門雑誌リストと、図書館提出用購読希望雑誌リストを各講座に配布し提出期限を５月末とした。③６月～７月末にかけて前述③～⑧の作業を行う。④８月６日委員会開催：集計した中止予定雑誌と次年度購読予定雑誌のそれぞれのリスト（案）を決定し、その２種類のカテゴリーリストを各講座へ配布し意見を求める。⑤９月17日委員会開催：各講座からの意見を最終的に調整し、再度リストを配布。⑥９月末に配布リストを回収し、特に意見が無かったので、10月７日教授会で承認を得、10月中旬オーダーすることとなった。参考：作業に当たってオフィスコンピュータNECシステム3050端末でパッケージソフト「LANFILE５」を使用。パッケージの特徴は、ノンプログラムでデータの検索、ソート、編集、集計等さらに多面的な各種帳票の打ち出しができ、実際に使用してみていまさらながら機械の威力をまざまざと知らされまし

表1．データ項目

ディレクトリ名：SORT－F　　ファイル名：GAI－S

項目ID	項目名	属性	桁数	少数	数値編集	カラー	表示位置
A	コード	NU	2	0	0	緑	標準
B	講座名	K	6			緑	標準
C	順位	NU	2	0	0	緑	標準
D	誌名	A	32			緑	標準
E	SHIMEI2	A	32			緑	標準
F	発行国	A	3			緑	標準
G	価格	NU	10	0	M	緑	標準
H	分類1	A	4			緑	標準
I	分類2	A	4			緑	標準
J	分類3	A	4			緑	標準
K	重複度	A	2			緑	標準
L	所蔵有無	A	1			緑	標準

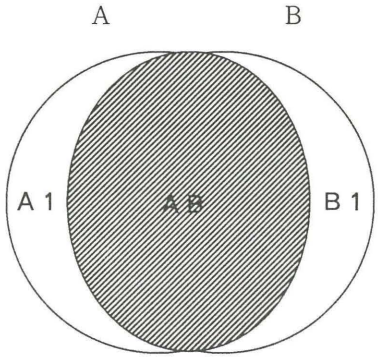
た。筆者は元来機械オンチでワープロを最低限の機能で使用できる程度でしたが、スタッフが小人数で手一杯の業務を抱えているため必然的にこの仕事に携わることとなり、必要上コンピュータを使用せざるをえなくなった。そこで使用マニュアルで簡単な例題等を練習し、なんとか1人で作業を行うことができるようになりました。恐らく手作業では時間的に次年度のオーダーはできなかったことと思います。

V．結　果

集計の結果は図2のダイアグラムに示すように現コレクションAと新規リクエスト分Bを単純に比較してみると重なり合った部分ABが見直し対象とならない雑誌、お互いに重なり合わない部分でA1(約2割)が中止候補雑誌、B1(約2割)が新規購読候補雑誌となった。

調査前にAとBの重なり合う比率がどのくらいになるか心配であったが、既存雑誌の約8割がそれに該当し、結果は満足のいくものであった。

新規オーダーリストは本年度予算を目安に単純に図2のリクエスト分Bの優先順位の高い雑誌からリストアップすれば作成できるのですが、それではあまりにラジカルだと思えるので、順位の低い雑誌でも現コレクションに含まれていればそれは残す配慮を行った。したがって、図2のA1（中止リスト）の金額に見合うようにB1（新規購読候補リスト）を調整しリストアップした。そして集約したリストA1とAB＋B1を混配した2種類のカテゴリー別リストを各講座に届け、中止の是非、あるいは新規で洩れ



A既存分　約540点（中央経費分のみ）
Bリクエスト分　約570点（共通部門雑誌も含む）
AB必ず購読　約430点
A1中止候補　約110点
B1新規候補　約140点

図2

は無いか確認調整をしていただき、再度寄せられた意見でさらに微調整を行い、最終的に中止分98点、次年度オーダー分543点(内新規雑誌97点）という結果になった。なお、新規雑誌とILLによる他大学への文献複写依頼の関係を調査してみると、平成4年度上半期分の申し込みをILLローカルシステムデータでコンピュータ集計した結果、当然のことであるが上位の雑誌は全て新規雑誌に含まれていた。

VI．考　察

従来、見直しを行う場合予算のみに重点がおかれ、“数量的評価＝削減”という図式で削減の雑誌を決定するために多大な労力と時間をかけて利用度調査等を行ってきたが、今回の方法

では若干ラフとも思えますがユーザーにとってのエージングの雑誌と、新規希望雑誌の動向の目安がつきやすく一度の調査で両方の効果を得たのが特徴といえます。さらに、次年度以降削減の必要が出でくると思えますが、表1のＡＢにランク付けをしたデータが確保してあるので、削減候補雑誌のリストアップも速やかにできるようになっています。

問題点は次のとおりです。①希望雑誌の優先順位を重視し、価格は二義的にとらえざるをえなかったので各講座間の金額的なバランスがとれなかった。しかし、かなり不満はあったようだが、今回は結果的に希望のかなりのものが購読できたことである程度の不満は解消されたようである。②各分野の雑誌が一元的、有機的にバランスがとれているかどうか（客観的に雑誌を評価しても最終的にはユーザーの選択に帰結せざるをえない）。③中止リストの雑誌中、必然的にマイナー言語の雑誌が目だった。④外国雑誌（一次資料）、外国雑誌扱いの二次資料、ニューメディアの二次資料のそれぞれの保有量、あるいは経費バランスの最適化。ちなみに、今回高額なものとしてChemical AbstractsとExcerpta Medica International Congress Seriesを中止しました。⑤学術情報ネットワークにおける学術情報資源の全国的な共有という観点に立てば、各館のコレクションはあまり移動の無いほうが望ましいと思います。

Ⅶ. おわりに

限られた予算で値上がりに対処するためにはいかに安く購入するか、例えば契約方法、差別価格、特定代理店制度等の改善、あるいは世界的に権威ある雑誌を日本で多く発行する等々いろいろなことが考えられますが、現状では削減の方向に行かざるをえない状況と思えます。もし、各館とも所蔵のスリム化が進んで行くなら極めて標準的で画一的なコアジャーナルだけのコレクションとなり、特色の無い図書館が増えて行くことと思います。それに対処する一方法として地域ブロック単位ででも有機的なネットワークをつくり、とりあえずレアジャーナルの分担収集等を考えてみる必要があるのではないでしょうか。

最後に今回の調査方法に対して、英断をくだされました高橋分館長、図書委員の先生方、及び協力いただいた分館スタッフの皆さんに謝意を表します。

（医学部分館）

（「医学図書館」40(2)より許可を得て転載）

ＩＬＬシステムについて

井関　章

近年の学術情報の増加とともに、文献情報検索についても、オンライン、CD－ROM等が普及し、利用者の求める情報の範囲も広がり、研究者の文献入手において各大学図書館間の相互協力なしでは要求に応じることが不可能になってきています。こうした中で、平成４年４月から国立大学等大学図書館における相互貸借・文献複写は、学術情報センターの提供するILL（Inter－Library　Loan：図書館間相互貸借）システムを使用しての依頼・受付がスタートしました。

従来の相互貸借・文献複写依頼業務では、学術雑誌総合目録など冊子体で所蔵調査をしてから郵便によって依頼をしていました。

ILLシステムは、学術情報センターの最新の総合目録データベースを使っての所蔵検索から依頼データの作成、発送・受付まで、すべてオンラインで行います。

このILLシステムの目的としては、1. 研究者には必要とする文献の迅速な入手、2. 図書館員には業務の省力化、3. 図書館間での資料の共同利用があげられます。

このような学術情報センターの提供するNACSIS－ILLサービスに山口大学附属図書館も最初から参加し、依頼・受付・料金通知などをオンラインで参加館間では行っていますが、すべ

ての大学図書館がILLシステムを利用しているわけではなく、未参加館については従来の郵送によって依頼・受付をしています。

山口大学附属図書館の文献複写について、最近5年間の推移は別表のとおりです。1991年度の増加は二次資料の充実、とくにCD－ROM等により簡単に大量の文献検索が出来るようになったこと、また1992年度からはILLシステムの利用により、複写依頼からコピー入手までの日数の短縮が図られると同時に各大学の最新の所蔵検索が容易になり、本学から他大学への依頼、他大学からの受付も著しく増加したためです。

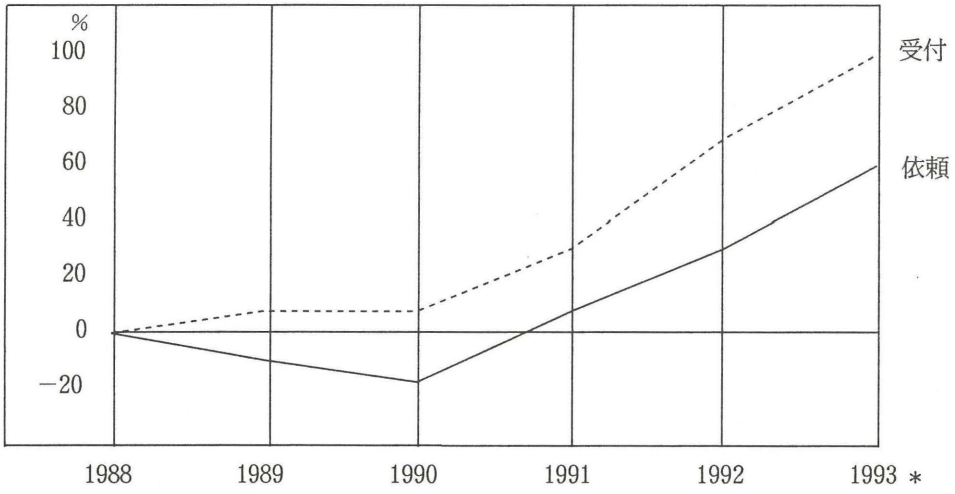
ところで本館の場合、資料のかなりの部分が研究室や学科の資料室などに所蔵されており、相互協力係の職員が毎日出向いて資料を借用し、複写の後返却に伺って居るため各研究室に迷惑をかけていることが多いと思います。以前から雑誌についての共同利用を進めておりますが、なお一層の協力をお願いいたします。今後とも他大学への依存度が高くなると思われますが、より多くの教官・研究者に利用して頂くと同時に、依頼のありました資料の提供についてもよろしくご協力をお願いいたします。

（相互協力係）

文献複写件数

年度	全体		本館		医学部分館		工学部分館	
	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
1988	4,454	4,818	2,343	1,464	943	2,818	1,166	536
1989	3,994	5,154	2,130	1,327	873	3,017	991	810
1990	3,733	5,103	2,138	1,448	849	2,829	766	826
1991	4,664	6,345	2,758	2,036	1,038	3,369	868	940
1992	5,710	8,363	3,549	2,828	1,394	4,141	814	1,394

文献複写件数の増減（1988年度を基準として）



＊　1993年度は4～7月分で前年度同時期との対比での推測

平成５年度附属図書館関係各種委員会名簿

（平成５年６月１日現在）

◎印は委員長

◇運営委員会

◎千葉喜彦（館長）
福本哲夫（医学部分館長）
中川浩二（工学部）
富平美波（人文学部）
豊澤　一（人文学部）
林　恒徳（教育学部）
佐々木洋城（教育学部）
米谷雅之（経済学部）
高取健郎（経済学部）
西脇太郎三衛門（理学部）
原　純一郎（理学部）
岸田令次（医学部）
粟井郁雄（工学部）
梶原忠彦（農学部）
井上　武（農学部）
道廣泰倫（教養部）
谷口　仁（教養部）
森松光紀（附属病院）
河野康二（医療技術短期大学部）

◇本館図書委員会

◎千葉喜彦（館長）
高木智見（人文学部）
滝野正二郎（人文学部）
佐々木洋城（教育学部）
岡村康夫（教育学部）
米谷雅之（経済学部）
高取健郎（経済学部）
田頭昭二（理学部）
村上柳太郎（理学部）
梶原忠彦（農学部）
井上　武（農学部）
青島　均（教養部）
森　茂暁（教養部）
中島周二（事務部長）

◇医学部分館図書委員会

◎福本哲夫（分館長）
岸田令次（基礎）
森松光紀（臨床）
佐田英明（基礎・助教）
小田祐胤（臨床・助教）
河野庸二（医療短大）

◇工学部分館図書・研究報告委員会

◎中川浩二（分館長）
専徳博文（機械）
長岡　勉（応化）
佐野　修（社会建設）
多田直文（電気電子）
山口静馬（知能情報）
後藤誠史（機能材料）
弥永　学（共通）

◇図書館機械化推進委員会

◎中島周二（事務部長）
河﨑戎三（情報管理課長）
川野茂美（情報サービス課長）
松本敬吉（図書館専門員）
佐村研治（総務係長）
山本弥生（受入係長）
江見伸子（目録係長）
安田浩規（運用係長）
恩知陽子（参考調査係長）
井関　章（相互協力係長）
上田照賀（医・整理係長）
吉光紀行（医・運用係長）
三浦博士（工・整理係長）
横山茂樹（工・運用係長）
ワーキンググループ・メンバー

◇ワーキンググループ

◎川野茂美（情報サービス課長）
佐藤　仁（総務係）
赤野　徹（受入係）
岡田　隆（目録係）
河本香代子（運用係）
田中俊二（参考調査係）
松本美智子（相互協力係）
渡部哲夫（医・整理係）
吉光紀行（医・運用係）
三次静男（工・整理係）
岩戸友行（工・運用係）
恩知陽子（参考調査係長）

◇本館予備選定委員会

＊学生参考用資料等を選定する。

◎江見伸子（目録係長）
宮地恵津子（受入係）
河本香代子（運用係）
堂迫妙子（参考調査係）
大沢恵子（相互協力係）

◇図書館報編集委員会

◎川野茂美（サービス課長）
山田千恵子（目録係）
井関　章（相互協力係）
吉野君子（医・運用係）
岩戸友行（工・運用係）
恩知陽子（参考調査係長）

お知らせ

附属図書館事務組織の改編を実施

学術情報システムの進展と利用者ニーズの多様化という状況の中で、大学図書館はその規模に応じたサービス機能の整備充実を図る必要がある。

山口大学附属図書館では、２年余りにわたる自己点検・評価を踏まえて、平成５年４月、事務組

織の改編を実施した。

その概要は次の通りである。

1．参考業務の充実を図るため、従来参考係で所掌していた、学内及び大学間の相互協力業務を分掌する相互協力係を新設した。

2．従来、所掌内容が情報管理課と情報サービス課に跨っていた雑誌係を、その業務内容に対応した係（受入係・運用係）に分掌した。

3．図書館業務の電算化が本格化したこと、並びに利用者の多様化したニーズに対応するため、所掌内容の全般的見直しを行い、併せて係名を次の通り一部変更した。

	（旧）	（新）		（旧）	（新）
本館	総務係	総務係	医学部分館	整理係	整理係
	受入係	受入係		閲覧係	運用係
	整理係	目録係			
	閲覧係	運用係			
	参考係	参考調査係	工学部分館	整理係	整理係
	雑誌係	廃止		閲覧係	運用係
	新設	相互協力係			

（管理課長・河﨑戎三）

森本記念文庫開設について

本学医学部生理学第二講座（助教授）森本昭生先生は平成４年12月16日職務中不慮の病で急逝されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、とてもご誠実でご厚篤なお人柄で、研究・教育に熱心に取り組まれ、数多くの業績を残されました。

その先生のご遺志を受けまして平成５年５月18日付で医学部分館閲覧室内に森本記念文庫を開設する運びとなりました。

当面、先生のお手持ちでした生理学関係の図書30冊を基に、毎年基金の利子により図書を買い足して充実させて行くことになっています。

皆様には是非先生のご遺志に報いるよう、多くのご利用をお願いいたします。

（医学部分館整理係長　上田照賀）

NACSIS－IRからのILL申込機能のサービス

今年度から、NACSIS－IR（学術情報センター検索サービス）を通じて文献複写等の依頼ができるようになりました。NACSIS－IRの利用者が検索中にリクエストコマンドを発行すると、自動的に利用者の所属する図書館のILLシステムに「複写申込」が送られ、図書館に出向かずに文献複写等の依頼をすることができます。

この機能を使うためには、利用者が附属図書館の承認を得ること、またNACSIS－IRの利用申請を済ませていることが必要です。

お問い合わせは、吉田地区は本館相互協力係、小串地区は医学部分館運用係、常盤地区は工学部分館運用係まで。

人事異動　＊係名変更による異動は省略

［退　職］（5．3．31）　佐　古　和　夫　　（情報サービス課参考係長）

	野村美由紀	（情報管理課整理係）
［昇　任］（5.4.1）	江見伸子	情報管理課目録係長（情報サービス課参考係員から）
［配置換］（5.4.1）	中島冠守	（情報管理課長）九州大学附属図書館へ
	吉田秀紀	（情報サービス課長）神戸大学附属図書館へ
	河﨑戎三	情報管理課長（神戸大学附属図書館から）
	川野茂美	情報サービス課長（高知医科大学附属図書館から）
	佐藤　仁	情報管理課総務係（医学部分館整理係から）
	赤野　徹	情報管理課受入係（情報管理課総務係から）
	高崎鈴枝	〃　（情報サービス課閲覧係から）
	宮地恵津子	〃　（　〃　）
	蔵成愛子	〃　（　〃　）
	山田千恵子	情報管理課目録係（情報サービス課参考係から）
	中川秀夫	情報サービス課運用係（情報管理課受入係から）
	浅井雅子	〃　（情報サービス課雑誌係から）
	恩知陽子	情報サービス課参考調査係長（情報管理課整理係長から）
	田中俊二	〃　（情報サービス課閲覧係から）
	堂迫妙子	〃　（情報管理課受入係から）
	井関　章	情報サービス課相互協力係長（情報サービス課雑誌係長から）
	松本美智子	〃　（情報管理課整理係から）
	大沢恵子	〃　（情報サービス課雑誌係から）
	渡部哲夫	医学部分館整理係（情報サービス課雑誌係から）
［採　用］（5.4.1）	小林容子	情報管理課目録係
	水津克規	情報サービス課運用係

日　誌　（2月15日－7月21日）

［本　　館］　＊この期間の来館者は、18大学より約30名。高校教諭等の見学が5団体。
3月4日(木)　平成4年度附属図書館職員研修会：「古典資料の命と姿」　講師　永井義雄氏
3月17日(水)　JLA研究集会（早稲田大学）
3月19日(金)　図書館ネットワーク研修会（県立図書館）
4月22日(木)～23日(金)　第41回中国四国地区大学図書館協議会総会・第20回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（山口グランドホテル）
5月13日(木)　附属図書館運営委員会
6月8日(火)　平成5年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京医科歯科大学）
6月22日(火)～24日(木)　第40回（平成5年度）国立大学図書館協議会総会（徳島県郷土文化会館）
7月21日(水)　平成5年度図書館職員研修会：次世代図書館情報システムについて
［医学部分館］　＊来館者：高校生施設見学（7月21日）
3月19日(金)　図書委員会
4月9日(金)　医学部専門1年生、及び医療技術短期大学部新入生オリエンテーション
4月19日(月)　医療技術短期大学部看護学科3年生文献検索講習会
4月28日(水)　大学院基礎コース文献検索講習会
5月20日(木)～21日(金)　第64回日本医学図書館協議会総会（川崎医科大学）
5月24日(月)　図書委員会
［工学部分館］
2月1日(月)　図書・研究報告委員会
4月9日(金)　工学部進級者及び夜間主コース新入生オリエンテーション
5月13日(木)　図書研究報告委員会

平成4年度図書館統計表

Ⅰ 蔵書数（平成5年3月31日現在）

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本館	768,885	299,867	1,068,752	11,592	4,478	16,070
医学部分館	79,137	72,459	151,596	1,815	1,899	3,714
工学部分館	80,888	48,853	129,741	1,427	1,321	2,748
計	928,910	421,179	1,350,089	14,938	9,566	24,504

Ⅱ 年間受入数

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	2,020	1,174	3,194	225	164	389
教育学部	4,174	1,111	5,285	404	245	649
経済学部	4,694	2,502	7,196	1,281	494	1,775
理学部	215	839	1,054	41	208	249
農学部	535	288	823	166	134	300
教養部	3,052	1,410	4,462	211	292	503
学生相談所					5	5
保健センター	23	2	25	7	2	9
埋蔵文化財資料館	19		19	6		6
本館	5,139	703	5,842	1,745	275	2,020
小計	19,871	8,029	27,900	4,086	1,819	5,905
医学部分館	1,541	2,046	3,587	814	657	1,471
工学部分館	1,848	1,528	3,376	666	543	1,209
合計	23,260	11,603	34,863	5,566	3,019	8,585

Ⅲ 利用統計

区分	開館日数（日）		入館者数（人）			館外帯出者数（人）			館外帯出冊数（冊）		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本館	247	192	211,659	40,163	251,822	23,486	6,347	29,833	43,403	11,661	55,064
	一日平均		857	209		95	33		176	61	
医学部分館	249	257	40,272	29,280	69,552	8,867	7,794	16,661	18,403	16,293	34,696
	一日平均		162	114		36	30		74	63	
工学部分館	275	192	93,864	25,348	119,212	8,837	4,454	13,291	15,001	7,113	22,114
	一日平均		341	132		32	23		55	37	

Ⅳ 文献複写（件数）

区分		学内者			学外者	他大学等			合計
		私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	
電子式複写	本館	2,121	260	2,381	271	1,156	1,672	2,828	5,480
	医学部分館	6,815	10,683	17,498	9,414	1,949	2,192	4,141	31,053
	工学部分館	51	26,726	26,777	100	103	1,291	1,394	28,271
	合計	8,987	37,669	46,656	9,785	3,208	5,155	8,363	64,804
印画引伸	本館	0	0	0	0	0	0	0	0

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　☎（0839）22－6111　内線788